

令和1年3月20日

放課後等児童デイサービス及び児童発達支援事業 自己評価の結果について

放課後等児童デイサービス事業及び児童発達支援事業では年に1度、保護者さんと事業所それぞれで自己評価を行い、公表することになっています。その結果を掲載いたします。

【自己評価結果（保護者さん）】 回答者14名 / 全利用者20名 回答率70%

・環境や体制について

環境面ではバリアフリーになっていないというご意見がありました。引き続き法人では物件の改修や移転を検討していきます。また体制面では利用人数に対してスタッフが少ないのではないか？とのご意見がありました。配置基準は満たしておりますが、活動の時にはヘルプスタッフが入れるように対応していきます。

・支援の提供について

支援内容については9割の保護者さんが満足しているとの回答がありました。しかし、他の保育園や障がいがない子どもとの交流に関しては「いいえ」「わからない」という回答が9割となりました。「地域との交流」について課題としてスタッフ間で話し合いを持ちたいと思います。

・保護者さんへの説明について

日頃からお子さんの過ごし方や状況について保護者さんと伝え合えているという評価があった一方で、面談が定期的ではない、活動の様子が写真でわかる様にして欲しいというご意見がありました。特に活動の発信については昨年度もあつたご意見です。改善が進んでいない理由を話し合い、発信方法を考えていきます。

・非常時の対応について

防犯や感染症対策について周知されていないというご意見がありました。行政から通知されています感染症対策マニュアルに基づいた事業所での対応や周知を徹底します。また非常災害対策計画は現在策定中です。

・満足度について

お子さんは概ね楽しんで通所して頂いているとの結果でしたが、ぽれっこ倶楽部として発達について学ぶ機会を設けてより良い支援を目指します。また、「学び」や「遊び」について見直して、事業所だけでプログラムをつくるのではなく、音楽療法や工作など、外部のスタッフも入りプログラムを組み立てていきます。

【自己評価結果（事業所）】

・環境や体制について

玄関の階段が急で危ないため、声掛けや見守りをしています。引き続き環境改善の為、他物件を検討していきます。

・業務改善について

日常のお子さんの様子を見た上で、児童発達支援管理責任者が個別支援計画を作成した上で、保護者さんと面談しぽれっこでの支援方針を確認しています。現在、非常災害対策の計画を立てる機会にリスク管理について見直します。

・適切な支援の提供について

ぼれっこでは日常の過ごし方や活動プログラムは固定化されないように工夫しています。一方で法人としては、新たなプログラムの取り組みも試行しています。生活介護事業所では音楽療法を始めていますし、学習支援では工作教室も始まっています。人員不足等もありまだ具体的には計画できていませんが、今後はこういった他の事業所プログラムを取り入れる方向で考えていきます。

・関係機関や保護者との連携について

必要に応じて児童発達支援センターなどの関係機関と情報共有しています。保護者さんへは、特に送迎時にお子さんの日頃の様子を伝えたり、保護者さんから意見や質問を伝えやすい対応に心がけていきますが、配慮が足りない場合は、率直に教えてください。また、地域で行われる子どもの支援に関する会議には法人事務局が出席しています。

・保護者への説明責任について

個人情報によく配慮しながら運営を心がけています。また事業所の自己評価では、通信で活動を発信できているという結果となりましたが、保護者さんから「活動の様子がわかる写真が欲しい」というご意見もあり、自己評価とのズレを修正するために内容の改善も進めます。

・非常時の対応について

避難訓練を行っています。概ねできているという自己評価となりました。法人の各事業所の責任者が参加する非常災害対策検討チームを組み、2月25日（火）に一回目の会議を行い、児童発達支援管理責任者の阿部も会議に出席しました。この流れで非常災害対策計画を作成している最中です。4月から計画を適用し、緊急時の連絡網の確認、防災グッズの備え、ハザードマップに基づいた避難ルートの想定、避難訓練の実施等を行っていきます。

